

10月4日（金）、2年1組で国語科の努力点公開授業が行われました。単元は「まとまりのある文章を書こう」です。生活科の町探検のときに書いた「探検のしおり」を基に、町の「すてき」を伝えるために必要なことをメモに書くことが目標です。

初めに、写真を見せながら、町探検について振り返りました。児童は、見たり聞いたりしたことを、「銀行で1億5000万円を見た。本物だよ」「美容院ではさみを見た」などと振り返りました。その後、教師が、「みんなが全部の場所に行けるといいんだけど」と言って、町の「すてき」を文章で書いて伝える必要性に気付かせました。



【町探検を振り返る様子】

次に、「見付けたこと」「聞いたこと」（事実）と「思ったこと」を分けて書くことができるようにするために、モデル文を使って、それらの区別の練習をしました。モデル文を読み、その中から、「見付けたこと」「聞いたこと」「思ったこと」を読み取り、線を引かせました。全体で共有し、「見付けたこと」「聞いたこと」「思ったこと」の違いについて確認しました。



【色付箋に書く児童】

その後、自分が「探検のしおり」に書いたことを、「見付けたこと（水色の付箋）」「聞いたこと（黄色の付箋）」「思ったこと（桃色の付箋）」に分ける活動をしました。なかなか書き進められない児童には、探検のときの写真をタブレットで見せ、思い出させました。こうすることで、町の「すてき」を集めることができ、書きたいことも増やすことができました。

さらに、探検した場所ごとにグループを作り、互いに「探検のしおり」や付箋を見合う「思い出しタイム」を行いました。グループでは、「〇〇じゃないよ。△△だよ」「え、そうだった？」と、教え合う姿が見られました。また、自分が書いていなかったことも書き加えられ、町の「すてき」に書きたいことを増やすことができました。児童は、「まだ書きたいことがある」「ぼくは14枚書いたよ」と意欲的に取り組むことができました。



【「思い出しタイム」の様子】

ここでチャイムが鳴りました。児童が続けたそうにしていたので、教師が「伝えたいことがたくさんになりましたか」と問うと、多くの児童が手を挙げました。休み時間になっても活動を続ける児童が多く、「町の『すてき』」を伝えたいという思いの高まりが感じられました。学習や体験活動で身に付いたことを、文章に書くには、目的意識が大切です。今回のように、「自分が見付けた町の『すてき』を、みんなにも知ってもらおう」と、目的を意識付けることで、活動が活性化します。大野木の町の「すてき」がたくさん集まりそうです。